

【授業科目】病理検査学特論 Advanced Laboratory Pathology

担 当 教 員		開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィス アワー	教職員への 授業公開
小菅 優子		4 年次 後 期	選 択	1	15	講義	あり	巻末 掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法		授業概要／病理学、病理検査学Ⅰ・Ⅱ、病理検査学実習Ⅰ・Ⅱ及び実習について総括的に講義を行う。 疾病時における臓器・組織・細胞等の形態学的検査および病理学的観点からの遺伝子関連・染色体検査について知識と技術の整理を行い、検査で得られた結果の解析と評価について総合的な理解を図ることを目的とする。病理標本作製法、染色結果から病態の考え方について教授する。 課題に対するフィードバック方法／課題を提出した場合は、提出されたレポートにコメントを付けて返却する。							
実務経験に関する 授業内容		病理検査学の臨床経験を持つ教員が、臨床検査技師として必要な疾患の原因と成り立ちから病理組織検査まで、経験を交えながら講義する。							
授業の位置づけ		本学のディプロマ・ポリシー⑤「将来に向け臨床検査を主体的に学び、臨床検査の専門職としてのキャリアを伸ばせる能力を持つことができる」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)		① 臓器、組織及び細胞の特徴や形態を理解できる。 ② 各病変について理解できる。 ③ 組織標本、細胞診標本の作製法について説明できる。 ④ 組織標本、細胞診標本の画像から疾患を推測できる。							
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言		第1～8回事前学習：指定の教科書を事前に読み、解らない用語について調べておくこと（各60分）。 第1～8回事後学習：各回での学びを復習することで確認し、解らなかったことは調べ教員に質問する（各60分）。 ＊その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある（各120分）。							
		※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間／1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間／1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間／1回）を取るよう努めてください。 詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画		第 1 回 病理学総論（細胞傷害、代謝異常、循環障害） 第 2 回 病理学総論（炎症、腫瘍、免疫異常） 第 3 回 病理学各論 第 4 回 病理組織検査法（肉眼観察、写真撮影、固定、脱灰、包埋、薄切、凍結切片作成） 第 5 回 病理組織検査法（HE 染色、特殊染色、免疫組織化学、病理組織標本観察・評価） 第 6 回 病理解剖、分子病理組織検査法、制度管理と標準化 第 7 回 細胞診検査法（細胞診標本作成・染色、細胞診スクリーニング） 第 8 回 細胞診検査法（細胞診標本観察・評価）							全て小菅
評価方法 評価基準		成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 定期試験 100%							
教科書		『最新臨床検査学講座 病理学・病理検査学』 医歯薬出版株式会社 (1年後期「病理検査学Ⅰ」で使用したもの)			参考書等		なし		
学生への メッセージ		病理標本と疾患の関わり、正確な病態把握が十分理解できるよう、積極的に講義に取り組んでください。							